



ムスタファ・ケマル像を移転する会



トルコから寄贈された“友好の銅像”の処遇について

皆さん、こんにちは。さて皆さんは”トルコ”といえばどんなイメージが湧くでしょうか？トルコアイス、絨毯、カッパドキア……。もしかしたらこれを読んでいる方の中には「トルコに行ったことがあるよ!」という方もいるかもしれません。実際トルコの人々はとても親切で日本に対して友好的です。



今回、そんなトルコの人々をととても悲しませるある問題がここ日本で起こっています。

「どんなことが起きてるの?」と気になった貴方、まずはトルコと日本の過去についてちょっとお話ししましょう。



日本とトルコの 昔話

1

今から 29 年前の 1980 年、国境を巡ってイランとイラクで戦争が起きました（イラン・イラク戦争）。戦争は中々終結せず、1985 年 3 月 17 日 ついにフセイン大統領は「48 時間の期限をたってもイラン上空をとぶ航空機は無差別に攻撃する」と宣言しました。



日本に かえれない・・・?



2

当時テヘランには 450 名を超える日本人が居ました。日本政府は彼らを脱出させるべく日本の航空機を手配しましたが、“期限までの脱出が困難である”等の理由から航空機を派遣する事は叶いませんでした。その後も他国に救援を頼みましたが、どの国も自国民を助けるので精一杯。そしてついに 215 名の日本人をテヘランに残したまま爆撃開始まで 25 時間という事態を迎えてしまいました。



皆さん
トルコに
着きましたよー!



3

誰もが諦めかけていたその時です。日本はトルコに最後の希望を託しました。「日本人の為に航空機を飛ばせないだろうか?」トルコ政府はこの救援要請に応じ、トルコからテヘランに 2 機の航空機がやってきました。そして爆撃開始まであと 3 時間というところで航空機は飛び立ち、無事トルコに着いたのです。あと数時間で爆撃を受けたかもしれない危険を冒してまで、なぜトルコは日本を助けてくれたのでしょうか?

4

時をさらに遡り、119 年前の 1890 年。現在の和歌山県串本町沖の海で一隻の軍艦が嵐で沈んでしまいました。その軍艦の名前はエルトゥールル号。オスマン帝国（現在のトルコ）の海軍の軍艦でした。船員は海に投げ出され、海岸にたどり着くも力尽き、587 名もの人が亡くなりました。なんとか助かった者は断崖を這い登って助けを求めました。この事態を知った大島村（現在の串本町）の住民達は必死に生存者達を救出し、介抱しました。台風で漁に出られず、食料もわずかしかなかったのですが、献身的な介抱の結果、69 名の船員が助かったのです。

デシエキュ
レデリム
(ありがとう)



5

日本海軍の軍艦で生存者達は無事トルコに送り届けられました。今回の悲劇は多くの日本人に衝撃を与え、たくさんの義捐金等が寄せられました。さてここに一人の日本人がいます。彼の名は山田寅次郎。この事件に衝撃を受けた彼はエルトゥールル号の犠牲者遺族に対する義捐金を集めるキャンペーンを行い、集まったお金（現在で約 1 億）を手にトルコに渡ります。このことから寅次郎氏はトルコで大変な歓迎を受け、当時の皇帝に謁見するにまで至りました。



6

その後、皇帝からの要請でトルコにとどまり日本とトルコの交流に力を注いだのです。イスタンブールで商店を開いたり、トルコの士官学校で日本語や日本の文化を教えたりしました。そしてその中には後のトルコ共和国の初代大統領であるムスタファ・ケマル・アタテュルクもいたとされています。

このことからトルコの人々は日本に対してとても友好的です。

では今回の問題ですが一体トルコと日本の間にどんな事が起こっているのでしょうか?

こんにちは
おはよう
ありがとう

